

目次	■多文化関係学会第17回年次大会について	2
	2018年度年次大会開催に向けて…2 大会概要のご案内…3	
	2018年度年次大会研究発表募集要項…5 石井奨励賞…6	
	大会までのスケジュールと参加費…7	
	■2017年度理事会議事録抄録	8
	■地区研究会報告	13
	関東…13 関西・中部…14	
	■地区研究会案内	15
	北海道・東北…15 広域（四国・中国・九州）…16	
	■お知らせ	17
	Web管理委員会より…17 学会誌編集委員会より…17	
	事務局より…18 新入会員紹介…19	
	学術委員会より 特定課題研究募集…19 会員新著紹介…19	
	NL委員会より…20	
	■編集後記	20

CONTENTS	■Announcements of the 17th Annual JSMR Conference	2
	Message from the Conference Committee Chair…2	
	About Conference…3 Call for Papers…5 The Ishii Yoneo Award…6	
	Future Schedule and the Conference Fee…7	
	■Records of the 2017 Board Meetings	8
	■Reports from the Regional Study Meetings	13
	Kanto…13 Kansai・Chubu…14	
	■Announcements on the Regional Study Meetings	15
	Hokkaido・Tohoku…15 Shikoku・Chugoku・Kyusyu…16	
	■Announcements	17
	From the Web Committee…17	
	From the Journal Editorial Committee…17	
	From the Business Office…18 Introducing New Members…19	
	From the Academic Affairs…19 New Publications…19	
	From the News Letter Committee…20	
	■Editor's Notes	20

多文化関係学会 第17回年次大会

「ものづくりの地域 東海で考える多文化共生の最前線 -多文化関係学の視点から-

【開催日】9月22日(土)・23日(日) [プレカンファレンス 9月21日(金)]

【会場】椋山女学園大学 星ヶ丘キャンパス (愛知県名古屋市)

**研究発表、ポスター発表、テーマティック・ポスターセッションの
申し込み期限は6月10日(日)です**

たくさんのお申し込みを心待ちにしております

多文化関係学会 第17回 2018年度年次大会開催に向けて

年次大会実行委員長 笠原正秀 (椋山女学園大学)

本年度の年次大会は、9月、椋山女学園大学において開催されます。ちょうど夏休み終盤、あるいは後期が始まったばかりで、お忙しい時期とは思いますが、大勢の方にご参加いただきたいと思います。このニューズレターが発行されるのは、各種研究発表の申込締切日直前の頃になるかと思えます。日常の忙しさもあり、スケジュール的にタイトかとは思いますが、研究発表にも奮ってお申し込みいただければ幸いです。

さて、これまで学会のメーリングリストやウェブサイトを通じて、年次大会に関してお知らせして参りましたが、ここで改めて大会の概要をお伝えさせていただきます。本大会のテーマは、「ものづくりの地域 東海で考える多文化共生の最前線-多文化関係学の視点から-」です。愛知・岐阜・三重県に静岡県を加えた東海地方は、周知のとおり、日本の多文化共生の最前線とも言える地方です。他の地方自治体から見れば、参考となるモデルケースということになりますが、東海地方としてみれば、常に新しい問題に直面し、その対応策を考え、実践を求められることとなります。こうしたこの地方がおかれている状況を踏まえ、本大会では以下のような観点から様々な企画を用意し、皆様をお迎えする予定です。

まず、プレカンファレンスでは、未就学の在日フィリピン人の子もたちが通う「国際子ども学校 ELCC」への訪問を計画しています。大会初日、基調講演は、池上重弘先生(静岡文化芸術大学 副学長)に「地域の国際化と多文化共生のフロンティア:東海地方に着目して」と題し、東海地方における国際化・多文化共生の現状について網羅的に話していただきます。次に、一般公開シンポジウムとして、「タイのノンフォーマル教育の実情と課題["Actual Circumstance and Challenge of Non-formal Education in Thailand"]」(講演者:Mr. Prayut Lakkum[プラユット・ラックム]氏)を行います。パネル・ディスカッションでは、「日本企業における外国人社員のキャリア形成の現状と課題-外国人社員・日本企業・研究者の視点から-」と題し、「外国人労働者」「企業人事担当者」「研究者」の各視点からのご発言をもとに、皆様とのディスカッションを予定しています。また、学術委員

会企画であるテーマティック・ポスターセッションでは、「防災」を切り口に、「多文化共生と防災・災害対策の取り組み」に関する研究・報告をポスター発表の形でを行います。

大会2日目、本学会設立20周年記念事業の一環として、「スペキュラティブ文化研究~『面白すぎる!』文化研究を目指して」を企画しています。そして、年次大会2日目最後の企画は、「実践から考える多文化共生の地域づくり-教育・福祉・防災-」と題し、3名のシンポジストから「生活者としての外国人」の視点に基づき、「教育」「福祉」「防災」の話題を提供していただくシンポジウムを行います。ここでご紹介した内容は、各企画の一部であり、充実した盛りだくさんの内容となっています。皆様に十分満足していただけるよう、更に企画を練り上げていきたいと考えています。

名古屋は日本のど真ん中に位置し、陸空路のどちらにおいてもアクセスしやすい環境にあります。また、近年は、名古屋発のいろいろな食べ物が全国区の知名度となり、「名古屋グルメ」としてお馴染みになりました。懇親会では、そうした「名古屋グルメ」もご用意しておりますので、「食」の方も楽しみにしてください。

さて、宿泊の手配はもうお済でしょうか?(株)JTB 教育旅行名古屋支店の全面バックアップにより、大会ウェブサイトからホテルの手配ができるようになっております。まだという方は、ぜひこちらをご参照ください。お申し込みは7月末日までとなっております。

また、大会期間中、会場校である椋山女学園大学でインターネットのアクセスを希望される方は、椋山女学園への申請が必要となります。申請は大会ウェブサイトの「アクセス」のページからできるようになっています。大会は週末開催のため、当日になって申請をいただいても対応することができません。ご希望の方は事前にお問い合わせください。

様々な企画を取り揃え、皆様のご参加をお待ちしています。今大会が意義深く、ご満足いただけるイベントとなりますよう、メンバー一同、粛々と準備を進めていきたいと思っております。9月、名古屋でお会いいたしましょう!

2018年度年次大会概要のご案内

【年次大会運営委員】

宇治谷映子(名古屋外国語大学)、笠原正秀(椋山女学園大学)、小松照幸(元名古屋学院大学)、近藤大祐(公益財団法人名古屋国際センター)、迫こゆり(岡山大学大学院)、趙師哲(愛知淑徳大学)、内藤伊都子(東京福祉大学)、湊邦生(高知大学)、叶尤奇(椋山女学園大学) *50音順

【プログラム内容】

●プレカンファレンス：9月21日(金)於 国際子ども学校ELCC

就学前の在日フィリピン人の子どもたちが通う「国際子ども学校 ELCC」を訪問します。もとは在留資格をもたないフィリピンルーツの子供たちのための「緊急避難的な施設」として20年前に設立されました。今学校に通っている子供たちはほぼ全員が在留資格を持っていますが、親が働きづめでコミュニケーションの機会が少なく、母語も日本語も中途半端という子供も多く通っています。同校では20名ほどの幼児、小学生が将来フィリピンに帰ることになっても適応できるように、フィリピンと日本の言葉・文化を習得できるカリキュラムを組んでいます。授業は9時40分から14時30分までで、参加者の皆さまには午後の授業の一部を見学していただくこととなります。その後、名古屋国際センターに場所を移し、矢元貴美氏(上智大学研究員)から、外国にルーツ(とりわけフィリピン)を持つ子どもたちを取り巻く状況について概説していただきます。プレカンファレンスの締めくくりは、フィリピンにルーツを持つ大学生たちとのトークセッションを行います。終了後、ミニ交流会も予定しておりますので、奮ってご参加ください。

(コーディネーター)宇治谷映子(名古屋外国語大学)

大会 第1日目：9月22日(土)

●一般公開シンポジウム

タイトル：『タイのノンフォーマル教育の実情と課題』(“Actual Circumstance and Challenge of Non-formal Education in Thailand”)

講演者：Prayut Lakkum(プラユット ラックム)氏

タイでは2000年代に外国人児童生徒の教育権保障が十分でないことが社会問題化しました。国は国籍を問わず教育権を保障する法律を制定し、現在法の実効化に取り組んでいます。本シンポジウムでは、タイ教育省で教材開発や現場の実態調査を行うMr. Prayut Lakkum(プラユット ラックム)氏を招き、外国人児童生徒の教育保障の実態と課題についてお話し頂きます。タイとの比較を通じて、日本への示唆を考える機会になればと考えておりますので、皆さま奮ってご参加ください。

(コーディネーター)馬場智子(岩手大学)

●基調講演

タイトル：「地域の国際化と多文化共生のフロンティア：東海地方に着目して」

講演者：池上重弘氏(静岡文化芸術大学副学長、文化政策学部教授)

基調講演では、本大会のテーマである「地域の国際化」と「多文化共生」について、主に東海地方の動向に焦点を当てて、ご講演いただきます。国際化の様相と外国人住民を取り巻く状況等を俯瞰したうえで、多文化共生の地域づくりのフロンティアを描き出します。

講演者プロフィール

専門は文化人類学、多文化共生論。静岡県多文化共生審議会委員、浜松市外国人子供支援協議会会長、磐田市多文化共生推進協議会会長等。主著に、『ブラジル人と国際化する地域社会-居住・教育・医療-』(編著、明石書店)、『国際化する日本社会』(共著、東京大学出版会)、『移民政策のフロンティア-日本の歩みと課題を問い直す-』(共編著、明石書店)等。

(コーディネーター)近藤大祐(公益財団法人名古屋国際センター)

2018年度年次大会概要のご案内

●パネル・ディスカッション

タイトル:「日本企業における外国人社員のキャリア形成の現状と課題－外国人社員・日本企業・研究者の視点から－」

パネル・ディスカッションでは、近年、在日外国人留学生の日本での就職による滞在が増加している現状を踏まえ、「外国人社員」「日本企業」「研究者」という各視点から、外国人社員を取り巻く現状と課題についてお話しいただきます。その後、パネリスト間やパネリストとフロアの皆さまとの間でのディスカッションを予定しております。外国人社員の視点からは、在日留学経験者であり、現在、日本企業で外国人社員として働く鄭学京氏、日本企業の視点からは、外国人労働者を雇い入れる企業人事担当者である長崎洋二氏、研究者の視点からは、異文化コミュニケーションがご専門である石黒武人氏にお話しいただきます。

〈パネリスト〉長崎洋二氏(ナガサキ工業株式会社 代表取締役)

鄭学京氏(矢崎総業株式会社 生産技術室)

石黒武人氏(武蔵野大学 グローバル学部 准教授)

〈コーディネーター〉内藤伊都子(東京福祉大学)

●テーマティック・ポスターセッション

タイトル:「多文化共生と防災・災害対策の取り組み」

このセッションは、災害時の外国人住民・観光客への対応が課題となる中での防災・災害の実践的取り組みについて、研究者・実践家による発表を扱うポスターセッションです。行政・教育・NPO・住民自治組織・個人等の多様な主体による災害対策・防災意識向上・防災活動への参加促進等の取り組みや、それらの取り組みの過程・結果で見えてきた課題や展望等がトピックとなります。このセッションでは研究者以外の皆様の発表を歓迎すべく、一般ポスター発表とは別枠で募集を行います。ぜひご応募ください。

大会第2日目 9月10日(日)

●20周年記念事業セッション

タイトル:「スペキュラティブ文化研究～『面白すぎる！』文化研究を目指して」

●学際シンポジウム

タイトル:「実践から考える多文化共生の地域づくり－教育・福祉・防災－」

外国人住民の定住・永住志向が高まりを見せており、「生活者としての外国人」という視点が定着して久しい一方で、地域の国際化に伴う課題は山積しています。当シンポジウムでは、教育、福祉(ソーシャルワーク)、防災を切り口にした多文化共生の地域づくりの実践者をお招きし、各領域における外国人住民を取り巻く状況や登壇者の団体の取り組み等をお話しいただき、多文化共生の地域づくりを実践から考えます。なお、シンポジウムの最後にフロアの皆様とディスカッションを行う予定です。

〈シンポジスト〉伊東浄江氏(NPO法人トルシーダ 代表)

葛冬梅氏(多文化防災ネットワーク愛知・名古屋 代表)

後藤美樹氏(外国人ヘルプライン東海 代表)

〈コーディネーター〉近藤大祐(公益財団法人名古屋国際センター)

2018年度年次大会・発表募集要項

次の事項をお読みいただき、奮ってご応募ください。

発表申込みや論文テンプレートなどについては、大会ページを参照してください。

大会ページURL: <https://sites.google.com/g.sugiyama-u.ac.jp/jsmr2018taikai/>

1. 発表テーマ

本学会の趣旨に沿ったもので、未発表のものに限ります。

2. 応募資格

(1) 筆頭発表者は、発表申込の時点で正会員・学生会員・シニア会員であることが必要です。筆頭発表者となるのは1人1回に限ります。ただし、連名発表者についてはこの限りではありません。

※ 会員の入会手続きには最低2週間程度かかります。会員手続きが完了していない場合、発表申請ができませんので、発表希望者はお早めに手続きを完了するようお願いいたします。

※ 応募時に2017年度の会費を納入していることをご確認ください。現時点で会費未納の方は至急お支払いください。

(2) 筆頭発表者が会員であれば、連名発表者は非会員でも発表することはできます。

(3) 発表者と連名発表者(非会員連名発表者は除く)は、2017年度の年会費が未納の場合、早急に納入してください。

(4) 筆頭発表者の方は、大会参加費を2018年8月10日(金)までに以下の金融機関にお支払いください。

(郵便振込) 口座番号:10530-59741441 口座名:「多文化関係学会」タブンカカンケイガツカイ

(銀行振込) ゆうちょ銀行 金融機関コード:9900 店番:058 店名:0五八(ゼロゴハチ)支店

口座番号:普通5974144 口座名:「多文化関係学会」タブンカカンケイガツカイ

※ 年会費の振込先とは異なりますのでご注意ください。

3. 発表時間

口頭発表:30分(発表20分、質疑応答10分、発表者交代時間5分)

4. 発表申込締切

2018年6月10日(日)

5. 申込要領

一般研究発表、ポスター発表、テーマティック・ポスターセッションの発表等、研究発表を申し込まれる方は、大会申込ページにて下記の12項目のうち、当てはまる項目についてお知らせください。

(1) 発表タイトル / Title ※ 応募時のタイトルからの変更はできません。ご注意ください。

(2) 発表形式(口頭発表、一般ポスター発表、テーマティック・ポスター発表) / Type of presentation (Oral presentation, Poster presentation, Thematic poster presentation)

(3) 非会員でテーマティック・ポスター発表に応募する場合の(会員の)推薦者 / Reference name for thematic poster presentation (if you are a non-member)

(4) 応募者 氏名 / Name of the head presenter (contact person)

(5) 応募者 所属(大学等、所属機関名) / Affiliation

※ 学生の場合は、大学名の後に所属学部/研究科名+課程名を記載

(6) メールアドレス / Email address

(7) 電話番号 / Telephone number

(8) その他発表者全員の氏名と所属 / Name(s) and affiliation(s) of co-presenters

(9) 発表要旨(400-600字) / Abstract (250-300 words)

※ 要旨には以下a.), b.)を含めるようにしてください。 / Please include the following two points in the abstract:

a.) 発表の主旨と背景 / 理論 / Intent and background / theory

b.) 研究 / 実践について: 目的、対象、方法(データ、参加者、手続きなど)を明記してください。結果については要旨には記載する必要はありませんが、抄録執筆の際に必ず記載してください。記載のない場合は、発表を取り消すことがあります。 / Please include purpose, object, and methodology (including data, participants, procedure, etc.). Result is not required in the abstract, but must be included in the proceedings. Exclusion of the result will lead to cancellation of the presentation.

(10) 多文化関係学との関連性(約200字) / Please explain the relevance of your proposed topic to the conference (about 100 words).

(11) 本学会の関連主要研究領域 / Research area

(12) 石井奨励賞の応募 / Application for Ishii Incentive Award

2018年度年次大会・発表募集要項

6. 発表者の決定

発表申込書は大会準備委員会および学術委員会で審議し、6月下旬を目途に採択の可否を電子メールでご連絡します。

7. 抄録原稿の提出

発表の審査が採択された方は、発表内容の抄録原稿をjsmr2018taikai@gmail.com(全角の@を半角の@に変更してください)まで送ってください(2018年7月22日曜日 必着)。

8. 抄録執筆要綱

【スタイル】

当学会の論文スタイルは、APA [American Psychological Association](国内のものでは、日本心理学会の「論文執筆・投稿の手びき」(2015年度改訂版))に準拠しています。そのため、本スタイルに慣れていらっしゃらない方は、特に本文中および文末の引用文献の表記のしかたに十分ご注意ください。詳細については、本学会の学会誌の巻末にある「執筆要領」のページをご覧ください。

大会ホームページより無料でダウンロードすることもできます。

【論文形式】

口頭発表・一般ポスター発表: A4用紙2頁もしくは4頁

テーマティック・ポスター発表: A4用紙1頁

口頭発表・ポスター発表(石井奨励賞): A4用紙4頁

【抄録の送付先】

jsmr2018taikai@gmail.com(全角の@を半角の@に変更してください)。

多文化関係学会研究発表 石井奨励賞

石井奨励賞は、若手研究者のキャリア開発支援のひとつとして、優れた研究発表を促進し、表彰するという目的のもと、次の手順で審査・表彰がおこなわれます。応募される方は、大会ホームページ内の発表申込みフォームの最後にチェックをしてください。

(1) 対象者

年次大会において、単著による「口頭発表」もしくは「ポスター発表」をおこなう、次の①②いずれかの会員: ①学籍のある大学院生; ②大会時、任期に限りのある職に就いている教員・研究員等。抄録送付の際、①②いずれの条件に該当するか明記すること。該当する会員すべてが選考の対象となる。

(2) 審査方法

【一次審査】抄録原稿(A4・4頁)により、若干名を選考する。※ 抄録が2頁の場合や、共著発表の場合は対象としない。

【二次審査】一次審査を通過した会員の口頭発表及びポスター発表の内容並びにプレゼンテーションを審査し、研究の将来性も踏まえたうえで若干名の受賞者を選考する。

(3) 副賞

2万円

(4) 学会誌への投稿の推奨

受賞者に対しては、対象となった発表をもとにした完成原稿を次号の『多文化関係学』に投稿することを強く奨励するが、義務とはしない。なお、投稿された論文は通常の査読にかけられ、審査がおこなわれる。論文が採用になった場合、「石井奨励賞受賞論文」と明記の上、学会誌に掲載される。

(5) 表彰

年次大会後に発行されるニュースレターに、石井奨励賞受賞者名、論文タイトル、学術委員会によって結成された審査委員会による講評を掲載する。翌年の年次大会の総会において、受賞者の表彰がおこなわれる。

大会までのスケジュールと参加費

- ◆6月10日(日)各種研究発表申込締切日
- ◆6月下旬 審査結果通知
- ◆7月22日(日)抄録提出締切(必着)
- ◆8月10日(金)大会参加事前申込および大会参加費事前支払い期限
- ◆8月中旬 プログラム発表

※ 昨年度の北海道大会と同じ時期であるため、このスケジュールは昨年度とほぼ同様です。

大会参加費（正会員の事前払いは、2,000円割引）

種別	事前払い (8月10日までに支払済の場合)	当日払い
正会員	5,000円	7,000円
シニア会員	5,000円	7,000円
学生会員（大学院生）	2,000円	3,000円
非会員	8,000円	9,000円
非会員学生（大学院生）	4,000円	5,000円
学部生	500円	500円

懇親会参加費（事前払いは、1,000円割引）

種別	事前払い (8月10日までに支払済の場合)	当日払い
正会員	5,000円	6,000円
シニア会員	5,000円	6,000円
学生会員	3,000円	4,000円
非会員	6,000円	7,000円
非会員学生	4,000円	5,000円

プレカンファレンスにかかる費用

当日、名古屋駅（東山線）から名古屋大学駅（名城線）まで（¥270）と名古屋大学駅（名城線）から国際センター駅（桜通線）まで（¥270）の地下鉄料金がかかります。乗車の際、各自でお支払いください。各種交通系ICカードが便利かと思えます。

年次大会に関するお問い合わせは、以下のメールアドレスまで(jsmr2018taikai@gmail.com)。

大会ウェブサイト:<https://sites.google.com/g.sugiyama.ac.jp/jsmr2018taikai>

2017年度 多文化関係学会 理事会議事録 抄録

■第1回理事会 議事録

日時:2017年5月27日(土)12:30~14:30

場所:名古屋外国語大学 7号館3階737教室

出席者12名(敬称略):松永、中川、田中、金本、湊、内藤、宇治谷、武田、松井、山田、趙、奥西

委任状3名(敬称略):伊藤、原、出口

1. 報告事項

(1)2017年度~2018年度役職について

2017年度~2018年度の理事および地区研究会の委員長等、役職者の確認が行われた。

(2)2017年度活動計画について

1. 事務局長からの報告

- 5月22日付けの会員数(286名)、昨年度退会者数(5名)、年会費未納者数(83名)との報告があった。
- 学会誌のバックナンバーに関してCiNiiからJ-STAGEへのデータ移行手続きが3月に完了した旨、報告があった。

2. 財務委員長からの報告

2016年度収支決算書について、資料に基づき報告があり、健全な会計運営となっている旨、報告があった。

3. 地区研究会委員会委員長からの報告

- (北海道・東北地区研究会)今年度の予定は、未定。
- (中国・四国地区研究会)11月25日(土)に開催予定。講師は山陽学園短期大学の江藤由香里氏。内容は移民の学力格差について。
- (九州地区研究会)北九州市立大学国際教育交流センターの小林浩明氏が委員に就任する旨の報告があった。2016年度3月に開催された研究会について、石黒武人氏を講師に迎え、23名の参加者を得た旨、報告があった。2017年度の研究会については6月22日に開催予定。九州大学伊都キャンパスにてHidasi Judit先生を講師に迎え、ワークショップ形式で行う予定。
- (関東地区研究会)2017年3月にミルトンベネット氏による半日ワークショップを開催し、60名を超える参加者を得た旨の報告があった。内容についてはHPに掲載済み。また2017年度第1回目の研究会を、7月23日明海大学にて開催する予定であることが報告された。石井敏先生を偲ぶ会および明海大学非常勤講師の田崎國彦氏による講演で企画中。

4. 第16回大会準備委員会からの報告

年次大会の準備状況について、当日欠席の伊藤理事に代わり、中川理事よりスケジュールと内容の報告があった。詳細が決定次第、HPに掲載していく予定。

5. 学会誌編集委員会からの報告

多文化関係学第14巻の投稿論文と査読の状況について報告があった。5月20日に第1回目の編集会議が開催された。次回は8月9日に開催し、査読結果について審議する予定。また、投稿規定の改定予定についても報告があった。投稿論文送付先および送付部数について(3部から1部へ)内容を変更することを検討中である旨の報告があった。

6. 学術委員会からの報告

4月7日に開催された学術委員会について報告があった。特定課題研究、年次大会における石井奨励賞、学会創立15周年記念出版企画について懸案事項の提示がなされた。特定課題について、審査員を学術委員会と学会誌編集委員会から1名ずつ選出する予定である旨の報告があった。

7. ニュースレター委員会からの報告

6月にHPにアップロード予定のニュースレターの準備状況について報告があった。

8. その他

科学研究費補助金申請の枠組みに、「コミュニケーション」等、多文化関係の分野に適切な分野設定が存在しないことに関し、他学会とのコラボにより新たに枠組みを文科省に提案する可能性があるとの報告が中川理事よりあった。この件については今後引き続き検討していくことになった。

2. 審議事項

1. 学会誌編集委員会に対する活動助成金について

編集委員が東京で会議を行う場合の交通費補助を認めるルール作りについて審議が行われた。理事会開催時の理事に対する現行の交通費支給ルールを適用することが承認された。具体的には自己申請に基づき、かかった交通費の20%を補助する。

2. 2017年度予算案について

財務委員会委員長より資料に基づき、2017年度予算案に関する詳細について説明があり、その内容が承認された。

3. 特定課題研究について

今後の実施形態について審議がなされた。学術委員会委員長より以下の提案があり、その内容が承認された。

- 2017年度分については、6月1日～7月20日の期間で応募を受けける。
- 8月中旬に協議し、8月下旬に申請者に通知する予定。
- 応募者の人数については2名以上の応募とする。
- 期間は1年ないし2年。
- 助成額は1万円ないし2万円。
- 学会誌への投稿は義務とするが、審査は他の投稿論文と同じ基準で行う。

その他、学会誌投稿の期限を設けるべきではないか、学会誌投稿を義務付ける代わりに年次大会での口頭発表を義務付ける方が現実的ではないか等、意見が出されたが、2017年度については現行にそって実施することとし、2018年度以降分については今後も継続審議していくことが承認された。

4. 広域委員会の立ち上げについて

若手研究者の育成を目的として、若手会員間のネットワークづくり、若手会員の上の世代とのネットワークづくりを可能とするために、地区研究会の枠を超えたテーマごとの研究会を作る可能性について、学術委員会委員長から提案がなされた。地区研究会を合同で開催し若手に発表機会を提供する等のアイデアが出され、今後も継続審議していくことが承認された。

5. 出版企画について

前理事会からの申し送り事項である15周年記念出版の可能性について審議された。学会創立15周年は昨年既に終わっていることから、20周年記念出版に向けてこれから具体的なアイデアを出し合い、準備を進めていくことが承認された。

お詫び:2017年度第1回理事会議事録につきましては、本来なら2018年2月発行のNL第32号に掲載すべきでしたが、掲載漏れとなり遅れての掲載となりましたことをお詫び申し上げます。なお、2017年度第2回および第3回議事録につきましては、NL第32号に掲載されております。

■第4回理事会 議事録

日時:2018年3月17日(土)12:30~14:50

場所:名古屋外国語大学 7号館 3階 737教室

出席者11名(敬称略):松永、中川、湊、田中、金本、原、笠原、宇治谷、武田、内藤、趙(順不同)

委任状4名(敬称略):松井、奥西、出口、山田(順不同)

1. 報告事項

(1) 事務局報告(事務局長)

3月16日現在の会員数の報告を行った。

総会員数 309 名うち正会員245 名(内、不明 4名、17 年度末退会希望 3 名、2017年度会費未納退会希望1名)、学生会員 59 名(内、不明 5名、2014年度より会費未納者1名)、シニア会員5名(内、17 年度末退会希望1名)

(2) 各種委員会報告(各委員会委員長)

① ニュースレター委員会より

2018年6月に発行予定のNL 第 33号の案が示された。

② 学会誌編集委員会より

◇ 『多文化関係学』第14号の編集・発送を1月中旬に完了した。

◇ 執筆要領および投稿規定の一部改定を行った(理事会承認済み)。

◇ 日本語版と英語版の執筆要領および投稿規定に齟齬があるが、どの時点で発生したものか不明であり内容の確認ができないため、一時棚上げすることとした(理事会承認済み)。

◇ 再レイアウト代の個人負担に関して、「投稿規定第15条」に準じ、「個人に対し特別な費用が発生する場合は個人に負担してもらう」ということになった(理事会承認済み)。

◇ 会費未納の査読委員の取り扱いについて、お礼の意味を込めて学会誌を一冊謹呈した(理事会承認済み)。

◇ 今年度から査読委員に対して御礼状を送付している。

→今後学会ロゴが入るレターヘッドを使う方針で進める(中川先生から出口先生に依頼)。

◇ 第15号の投稿に関するお知らせの延長のため、2018年度第1回編集委員会は5月12日または19日に開催する予定である。

◇ 編集委員会の来年度のメンバーは以下8名となる。

金本委員長 原副委員長

仲野委員(アドバイザー)岡村委員 叶委員 奴久妻委員 オリバー委員 矢口委員

③ 関東地区研究会より

2018年2月17日に、小坂貴志氏により「対話論とは何か——対話的な社会問題の読み解きと会話の意味」をテーマとした今年度第2回関東地区研究会を開催した旨の報告があった。

④ 関西・中部地区研究会より

本日(2018年3月17日)、ヤコブ・E・マルシャレンコ氏により「法廷通訳人から見た通訳言語としての英語をめぐる課題に関する一考察」をテーマとした今年度第2回関西・中部地区研究会を開催する旨の報告があった。

⑤ 選挙委員会より

来年度で4年の任期を終える予定の理事は6名であることが報告された。

- ⑥ 学術委員会より
2018年度年次大会のテーマティックポスターセッション、「多文化共生と防災・災害対策の取り組み」に関して報告があった。
- (3) 年次大会準備進捗状況報告
- ① 3月末から4月のはじめにかけて、年次大会のウェブサイトが開設されるとの報告があった。
- ② プレカンファレンスは名古屋国際センターで行う。このため、会場使用料が発生するが、料金に関しては、4月中旬以降に分かる。笠原先生の本務校から資金の援助を得られるかどうかの結果は4月中旬に分かる。援助がある場合は、名古屋国際センターの使用料金をそこから出すが、援助金が出ない場合は大会用の通帳から振り込む(理事会承認済み)。
- (4) 記念図書出版について
多文化関係学会20周年記念事業企画について、記念事業作業部会において企画の「たたき台」が作成され、その報告があった。2021年度までに必要となる費目について作業部会で策定し、特に2018年度の費目については財務担当理事(松井先生)と相談の上、2018年5月の臨時総会で予算を計上する予定である。
- (5) その他
岡山大会の英語プレゼンテーションの内容を出版するため、2018年1月に英宝社に初校を提出し、2019年度完成の予定で進んでいる、という武田先生よりの報告があった。

2. 審議事項

- (1) 2018年度の特定期間研究の募集について(学術委員会委員長)
2015年度から募集開始以降、条件を満たした応募がない状況が続いているという報告があった。今後の進め方について審議を行った。
→審議の結果、2018年度については募集を継続することになった。
また、多文化関係学会20周年記念事業企画を特定期間研究として行う案が出され、20周年記念事業作業部会にて検討することとなった。
- (2) 執筆要領・投稿規定に関わる事項などについて(学会誌編集委員会委員長)
- ① 執筆要領・投稿規定に一部改正に関わる事項
再査読の結果は「B」と「B」の結果であったとしても、学会誌に掲載できるレベルに達していないと判断される論文の取り扱い及び編集委員会の権限について審議を行った。
→審議の結果、継続審議事項となった。
- ② 大学院生の投稿に関しての提案
大学院生の投稿について、投稿規定に「指導教員による点検を義務付ける」という補足を付けるかどうかについて審議を行った。
→審議の結果、継続審議事項となった。
- ③ 編集委員に対してAPAの配布
若手の編集委員にAPAを配布することが理事会で承認された。予算のことについて、編集委員会委員長から財務委員長に依頼することになった。
- ④ 倫理審査について
学会誌第16号から倫理審査を受けることを奨励することとする(理事会承認済み)。
具体的な提案は編集委員会委員長から出されることとなった。
- ⑤ 不採択の論文について
査読の結果が「C」になった論文のうち、内容的に即自的な公開が望まれるものに対し、学会のウェブサイトにてワーキングペーパーの場所を設け、PDFの形で掲載するかどうかについて、審議を行った。
→審議の結果、継続審議事項となった。

(3) 広域地区研究会について(執行部)

- 北海道地区(北海道地区研究会委員長)と東北地区(岩手大学の2名の先生を中心に)が協力し、広域地区研究会を行う可能性があるとの報告があった。
- また、九州地区(九州地区研究会委員長)と中国・四国地区(中国・四国地区研究会委員長)が協力し、広域地区研究会を行う可能性があるとの報告があった。

(4) 2018年度第1回関東地区研究会について(関東地区研究委員会委員長)

非会員ゲストスピーカー(2名)の謝礼の増額について審議を行った。

→1人に1万円まで増額する(理事会承認済み)。

→5月26日の関東地区研究会の前に理事会と臨時総会を行うこととなった。

(5) 2019年度年次大会の異文化コミュニケーション学会とのコラボについて(執行部)

2019年度年次大会について、異文化コミュニケーション学会とコラボして進めることが承認された。多文化関係学会の窓口は山本志都先生で、異文化コミュニケーション学会の窓口は出口真紀子先生となる。

(6) その他

新入会員が申し込みする際に提出すべき情報について、今後「研究分野/業務内容」を書いてもらうように設定することとした(理事会承認済み)。最終学歴等を記入してもらうかどうかについては、継続審議事項となった。

(7) 2018年度年次大会について

- ① 大会日程について承認された。
- ② 参加申込(ウェブサイト)の様式が承認された。
- ③ 岩手大学の馬場先生がタイ教育省のPrayut Lukkum氏を年次大会に招待する予定がある。大会でセッションを設けることとなった(理事会承認済み)。
- ④ 大会参加費:学部生が500円で参加できる金額を特別に設けることが承認された。
- ⑤ 宿泊についてプリンセスガーデンホテルで20室予約を取っている(追加可能)という報告があった。

地区研究会報告

■ 関東地区研究会報告

日時:2018年2月17日(土) 13:00-16:00

場所:成城学園 7号館711教室

講演者:小坂 貴志 先生(神田外語大学)

タイトル:「対話論とは何かー対話的な社会問題の読み解きと対話の意味ー」

研究会は20名ほどの参加者の下行われた。

小坂先生の略歴と共に、対話論を学ばれた頃のアメリカ留学、先生を対話論に導いたDance先生のお話をされ、「対話論」研究の概略の講義の後、「対話」という言葉の定義の試みをされた。現代の社会の、特に外交場面での「対話」に注目して、「対話」の位置づけ、「対話」という言葉の使われ方を幅広く講義された。

イントロダクションとして「対話との遭遇」と題されて、デンバー大学でDance教授の下、ヴィゴツキーを読む経験があったこと、モントレー国際大学院大学で教鞭をとる中、核不拡散研究センターが新聞の切り抜きをしていると揶揄された例を挙げて、言語哲学と共に、「対話」が実際にどのように行われているかの現場の集約の必要性を示された。

前半は対話論の系統が講義された。対話論は、統語論からの脱却を目指したコミュニケーションを中心とする言語学であるとして、Skidmore & Murakami(2016) “Dialogic Pedagogy—The Importance of Dialogue in Teaching and Learning—”の「対話論は言語哲学であり、言語とは何かを理解するにあたり、社会言語的相互作用の現実を中心に中心的な重きを置く。ミハイル・バフチン(1895-1975)の思想ともっとも関連があるが、バフチンサークルのメンバーや、このサークルの直接関係しない研究者の思想によってさらに深く展開することになった」という言葉が紹介された。対話論の系統として、ヴィゴツキー、フレイレといった、発達心理学や教育学における言語「対話」、文学批評の形をとったバフチン、量子力学者の立場からインタラクションの必要性和説いたボーム、メディア論の立場から、各テクノロジーによる人間のサイコダイナミクスに与える影響を示したオング、哲学の立場から宗教の対話を取り上げたブーバーを取り上げ、対話論の幅広さが示された。

後半は、「対話」という言葉の使用場面を考察して「対話」とは何かに迫った。「対話」は①外交②医療③教育の場面で多く使われるが、特に、本講義では、外交場面に注目して北朝鮮外交で使われる「対話」を通して、「対話」と「会談」の違い、双方が歩み寄っていくプロセスとしてEUが示した「対話」の定義とは異なり、「人間の創造物間に認められる差異をたえず創り上げている概念である一方、差異の影響を受け(不)共鳴を繰り返す複数の声を聞き分け、その意味を読み解き、かつ差異によって創り上げられる関係性そのものを表す枠組み」という重層的な対話の定義を提示した。

以上のような講義をもって、基礎研究としての対話(論)の必要性と実践知として認められる「対話」の重要性が示された。



報告者:小笠恵美子(東海大学)

■ 関東地区研究会

日時:2018年5月26日(土)13:30-16:00

場所:成城大学 7号館711教室

講演者:菊川 れん 先生(フリーランス手話講師)・角田 麻里 先生(関東学院大学)

タイトル:「ろう者からみた聴者の世界」

手話講師の菊川れん先生と手話通訳士の角田麻里先生をお迎えした研究会の様子は、NHK Eテレの番組「ろうを生きる 難聴を生きる」(毎週土曜日 20時45分～21時00放送)で取り上げられ、6月に放送の予定です。

■ 関西・中部地区研究会報告

日時:2018年3月17日(土)15:00-17:00

場所:名古屋外国語大学 7号館3階(738教室)

話題提供者:Jakub E. Marszalenko(ヤコブ・E・マルシャレンコ)氏(名古屋外国語大学国際交流部)

タイトル:「法廷通訳人から見た通訳言語としての英語をめぐる課題に関する一考察」

日本の通訳を要する刑事裁判では、英語の使用率は4.5～7.9%を占め、第一位を占めている。しかし、通訳の対象となる被告人の多くは英語の母語話者ではなく、理解が不十分であり、法定ディスコース(口頭発表される法律文書)が十分に理解できないこともある。

研究目的で被疑者・被告人に直接聞き取りを実施したり、審理を録音したり、裁判記録を用いたりすることが不可能なため、使えるデータには限りがある。この現状を踏まえ、本研究では公表される統計その他の司法機関作成の資料、傍聴メモを使用した。また、通訳者や司法関係者への聞き取り調査を実施した。

本論に入る前に、英語の使用状況とその多様性について言及があり、リングフランカの実態について説明があり、英語が世界各地で多様なコミュニケーションの手段となっている現状を述べた。そして、Kachru(1990)が提唱する世界諸英語(World Englishes)の分類である「内部圏」、「外部圏」、「拡張圏」についての説明があり、英語の変種や使い方については、広く寛容な視点から捉えることの重要性を主張している。

まず、法廷通訳人へ協力を依頼し、刑事裁判記録の中で唯一公開される判決文の抜粋を日本語から英語に翻訳してもらい、リーダビリティの公式を用いて英訳文の難易度を測定した。フレッシュリーダビリティテストの結果、英訳の難易度は「難しい」という結果が多数を占め、普通レベルの点数に達した英訳文はなかった。また、通訳人への聞き取り調査を実施した所、「検察官の冒頭陳述の要旨告知は結構早口で通じているか不安である」、「日本語の長い文は区切って訳すようにしている」、「簡単な英語を使っても理解に支障をきたすことがある」、「アフリカ系の人達は不完全な英語で一生懸命理解しようとしている」、「法曹関係者は正しい訳はひとつしかないと考えるが、通訳の実務者からすると正しい訳には範囲があり、その範囲に入れば問題ない」などの点が明らかにされた。翻訳の等価性の難しさや、世界中の英語の多様性、リングフランカが生み出す問題や危険性が論じられ、通訳翻訳には様々な戦略が用いられている実態が明らかにされた。

まとめとして、被告人の第一言語に堪能な通訳者が見つかりにくい現状においては、英語に頼らざるを得ない状況があり、十分な英語力がない被告人に対する通訳者の英語をどのように工夫すべきかについて、さらなる検討が必要である現状が明らかにされた。

また、通訳翻訳サービスは誰のために提供されるのか、その目的は何かを認識することの重要性が指摘された。そして、通訳言語に対する十分な運用能力を持たない被告人の場合、刑事手続に対して十分な理解を確保するよう、通訳人と法曹三者の双方は共同責任の意識を持つ必要があるということなどが指摘された。

我々にとって、身近に感じながらも不明な点が多く、ある意味では遠い存在でもある通訳業界は、調査が難しい分野でもある。司法通訳翻訳が抱える英語使用に関わる問題について、等価性等の技術的な面のみならず、今日の英語の多様性が引き起こす問題にまで踏み込んで考察がなされた示唆に富む貴重な議論であった。今後も学会で豊富な知見を披露して頂きたいと願う次第である。そして、できれば書籍化され、通訳に携わる方々にも一読して頂きたいと願う。

報告者:原 和也(明海大学)

地区研究会案内

■北海道・東北地区研究会

2018年度の北海道・東北地区研究会を以下の通り、開催いたします。今回は愛媛大学名誉教授で元本学会会員でもある細川隆雄先生に話題提供をいただきます。ご自身のこれまでの鯨塚調査を踏まえて、鯨と日本人の関係および日本における鯨文化などについてわかりやすくお話いただく予定です。参加費は無料です。ふるってご参加下さい！



日時:8月4日(土) 14:00-16:30

場所:藤女子大学 北16条キャンパス 374教室 <http://www.fujijoshi.ac.jp/guide/access/>

(使用教室は当日変更される可能性があります。予めご了承下さい。)

話題提供者:細川 隆雄 氏(愛媛大学 名誉教授)

タイトル:「日本人はどういう理由で鯨塚を建てお祭りしたのかー鯨の記憶を追って愛媛県遊子から世界へ、鯨塚巡礼の旅ー」

発表概要:日本人はどうして鯨塚を建てたのか、これまで発表者が津々浦々の鯨塚を調査してきた事例を紹介したい。それぞれの鯨塚建立の背景にはどのようなストーリーが潜んでいるのか。あえて目的めいたことをいうと、多文化関係学会のキーワードとなっている「文化」という概念、はたして私たちは「文化」の内実をどこまで深く理解しえるか。膚感覚で実感しえるか。内実を理解して初めて、対外的にも自信をもって多文化論や異文化論を展開しえるだろう。発表者は、鯨に着目して、鯨塚をたてて祭祀するという、いわば鯨塚文化の事例調査を通じて「文化」の内実に迫ることにした。日本人は古くから鯨を捕ってきた。日本は伝統的に捕鯨文化・鯨文化を有する国とみてよい。だが周知のように日本の捕鯨・鯨食文化にたいして、西洋諸国によっていわれなき批判がなされる。その批判を乗り越えるためには、私たち日本人は、鯨文化の内実をもっと深く勉強する必要があるだろう。

主要業績:

「シベリア開発とバム鉄道」地球社, 1983年

「ソ連農業の現実」晃洋書房, 1985年

「ソ連林業論序説」晃洋書房, 1987年

「ソ連水産論序説」晃洋書房, 1989年

「ソ連農業経営史」晃洋書房, 1991年

「ソ連の森林資源」晃洋書房, 1993年

「ソ連の崩壊と新国家の誕生」創成社, 1995年

「鯨塚からみえてくる日本人の心1~5」編著, 農林統計出版, 2008年~2016年

「岐路にたつ中国とロシア」共著, 創成社, 2015年

「ほっそん先生鯨に恋をする3」編著, 農林統計出版, 2016年など

* 事前連絡は不要ですが、ご質問等ある場合は伊藤(藤女子大学)までご連絡下さい。

itoakemi@fujijoshi.ac.jp (全角の@を半角の@に変更してください)

広域研究会案内

■ 2018年度広域研究会

中国・四国地区・九州地区合同開催

大学院生・若手研究者による研究発表会 発表者募集のご案内

2018年7月28日(土)、中国・四国地区および九州地区合同の広域研究会を開催します。今回は院生、および修士・博士修了5年以内の方々を対象とした研究発表会です。若手研究者間での討論や経験豊富な学会員によるアドバイスを通じて、年次大会での発表や学会誌投稿への足がかりとしていただく機会を提供することを目的としています。研究会発表会後には、研究交流会も予定しています。ふるってご応募ください。

日時:7月28日(土) 13:30-16:30(予定)

場所:九州大学西新プラザ(福岡市早良区西新2丁目16番23号)2階 多目的室

アクセス <http://nishijinplaza.kyushu-u.ac.jp/access.html>

発表資格:多文化関係学会に所属する学生会員または正会員。

発表時間:30分(発表20分、質疑応答10分、発表者交代5分)

発表申込締切:2018年6月29日(金)

申込方法:以下のURLにアクセスし、必要事項を入力してください。

https://docs.google.com/forms/d/1GIkWaoqZHqJ8jMLI_eLiTSl0Xj5XVnQ_cvXfT6Bw8Nw/edit

採否の結果:7月9日(月)までに電子メールで連絡します。

※ 発表者が福岡市内以外から参加する場合、特に遠方からの発表者に対しては、地区研究会の活動費の範囲内で旅費の支援を行う場合があります。

<問合せ先>

九州地区 山田直子 email: yamada@cc.saga-u.ac.jp (全角の@を半角の@に変更してください)

中国・四国地区 奥西有理 email: okunishi@ped.ous.ac.jp (全角の@を半角の@に変更してください)

お知らせ

Web 管理・広報委員会より

《登録事項の更新をお願いします》

■会員専用サイトでの所属・住所等の変更

ご所属・e-mailアドレスなど会員登録情報の更新をお願い致します。会員登録情報の変更は会員各自で行えます。登録情報を更新しなければ学会からのお知らせが届きません。登録情報に変更があった場合は更新をよろしくお願い致します。また、e-mailアドレスについては、現在使用されていないアドレスの方がいらっしゃいますので、今一度ご確認ください。なお、会員番号やパスワードがお分かりにならない方は、事務局(admin@js-mr.org 全角の@を半角の@に変更してください)宛に御連絡下さい。

■登録情報の更新手順

1. 多文化関係学会ホームページ(URL: <http://www.js-mr.org/>)
2. 学会員専用サイト(会員番号・パスワードを入力し、ログインボタンをクリック)
3. 登録情報更新をクリック
4. 変更点を修正し、一番下の更新をクリック

(Web管理・広報委員会委員長 出口 朋美)

学会誌編集委員会より

■『多文化関係学 第15巻』(2018年)に関するご報告

学会誌編集委員会委員長を務めます金本伊津子(桃山学院大学)です。学会誌編集委員会(原和也副委員長(明海大学)を含む新旧の編集委員7名)と『多文化関係学』の第15巻の編集作業に早速、取り掛かっております。2018年5月6日に締め切りを延長したところ、若手研究者を中心とする投稿が14件ございました。いずれも実践に基づいた興味深い論文です。学会員の研究発表の場である学会誌のレベルを高めつつ、今年に入り顕在化してきたアジア、アメリカやヨーロッパにおける政治・経済・文化、あるいは、人々の移動や考え方の変化にも注視しつつ、『多文化関係学』の知見を積極的に発信してまいりたいと思います。

ご投稿いただきました皆様には感謝を申し上げるとともに、これから査読・編集の作業を進めるにあたり、査読委員としてご協力を賜ります学会員の皆様にもどうぞよろしくお願い申し上げます。学会誌の発行予定は、例年通り、12月を目途としております。

なお、今年度は、編集作業の効率化を図るため、投稿規程と執筆要領の整備を進めるとともに、「人を対象とする研究倫理審査」に関する議論も闊達に行いたいと考えております。

2018年度学会誌編集委員会

委員長	金本伊津子(桃山学院大学)
副委員長	原和也(明海大学)
委員(アドバイザー)	仲野友子(青山学院大学)
委員	岡村郁子(首都大学東京)
委員	オリバー クリス(上智大学短期大学部)
委員	奴久妻駿介(一橋大学大学院博士課程)
委員	叶尤奇(相山女学園大学)
委員	矢元貴美(上智大学)

(学会誌編集委員会委員長 金本 伊津子)

事務局より

今年は桜の開花が早く、春を飛ばして夏のような暑さの4月でした。皆様は花見は楽しまれたでしょうか。新体制になり、1年が過ぎました。本年度も事務局一同、皆様のお力をお借りしながら、事務局運営を行ってまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。以下、事務局からのお知らせです。

■事務局所在地について

〒120-0023 東京都足立区千住曙町34-12

東京未来大学 モチベーション行動科学部

田中真奈美研究室内 多文化関係学会事務局

*Eメールアドレス admin@js-mr.org(全角の@を半角の@に変更してください)

■学会費の納入について

今年度も学会費納入をお願い致します。その際、払込料金(手数料)の支払いにつきましては、会員の皆様の方でご負担をお願い致します。

■会費納入状況に関するお問い合わせについて

お問い合わせは、会費に関する業務を委託しております [学協会サポートセンター](mailto:scs@gakkyokai.jp) (scs@gakkyokai.jp 全角の@を半角の@に変更してください)までお願い致します。その際、メールの件名は「多文化関係学会」とし、ご自分の氏名、会員番号、ご用件をお書きください。

また、[退会希望](#)の場合も、会費納入状況の確認と合わせて、[学協会サポートセンター](#)へご連絡ください。

■住所・所属などの変更について

大変お手数ですが、学会員専用サイトにログインし、[ご自分で情報を更新](#)していただくとともに、送付物の住所を管理している[学協会サポートセンター](#)にもご連絡ください。

■学会ホームページ「学会員専用サイト」の会員番号とパスワードについて

学会ホームページ(HP) <http://www.js-mr.org/> では、登録情報の更新などを行える「学会員専用サイト」があります。情報の確認及び更新をお願い申し上げます。学会員専用サイトへのログインには、会員番号とパスワードが必要です。お忘れになった方は、[事務局](#)(admin@js-mr.org 全角の@を半角の@に変更してください)までお問い合わせください。

■学会誌『多文化関係学』バックナンバーの販売について

学会誌の販売は、株式会社インターブックスに委託いたしております。学会誌バックナンバーのご購入をお考えの会員の方々は、恐れ入りますが、学会事務局ではなく[インターブックス](#)にお問い合わせください。

ホームページ: <http://www.interbooks.co.jp/>

メールアドレス: info_ml@interbooks.co.jp (全角の@を半角の@に変更してください)

電話番号: 03(5212)4652 ファクス番号: 03(5212)4655

なお、学会誌『多文化関係学』の論文は、論文検索サイトJ-STAGEにおいて順次掲載されております。

(事務局長 田中 真奈美)

新入会員紹介 (敬称略、入会順)

会員資格	氏名	所属	研究分野 / 業務内容
一般	森田 ヤスミツ		ジェンダー サハリン近代史 北方少数民族 部落差別
学生会員	近藤 文哉	上智大学大学院 グローバル・スタディーズ研究科 地域研究専攻	人類学

(2017年11月1日から2018年4月30日に入会された方)

学術委員会より

■2018年度多文化関係学会特定課題研究募集のお知らせ

多文化関係学会では、会員間での研究連携の活発化を促し、共同研究をスタートアップさせるために、「特定課題研究」を設けています。

このたび、2018年度の研究課題につきまして、募集を行います。採用された課題に対しましては、スタートアップ支援としまして、1課題につき1～2万円(活動補助金)を支給いたします(ただし、本学会会計年度内での支出に対する支援となります)。

詳細につきましては、決定次第学会ウェブサイト上に掲載いたします。「多文化関係学会特定課題研究募集要項」と合わせてご確認ください。

会員の皆様の積極的なご応募をお待ちしております。

(学術委員会委員長 湊 邦生)

会員新著紹介

■『学校と子ども、保護者をめぐる多文化・多様性理解ハンドブック』

著者:松永典子 編著、施 光恒、波瀾 剛、S.M.D.T. ランブクピティヤ

出版社:金木犀舎

出版年:2018年3月

総ページ数:128ページ

内容:

外国につながる児童生徒と日本語指導の現状、日本の学校文化の特異性、文学作品からみる多様性理解など、多文化・多様性についての理解を深め、学校現場での対応に役立つ情報をまとめたハンドブック。ある日学校に外国につながる子どもがやってきたら手続きは何からすればよいのか、コミュニケーションにはどういったコツがあるのか、学校現場の先生、保護者、地域の方々が戸惑わずに受け入れられるよう、基本的な知識と情報を詰め込んでいる。

NL委員会より

■ 著作図書案内・書評・海外シンポジウム参加報告記事募集

ニュースレター(NL)委員会では、次回34号(2019年2月発行予定)掲載記事として、会員の皆様の著作図書案内、海外シンポジウム参加報告、震災関連や多文化関係学会に関連した研究、関連学会参加報告記事などを募集しております。以下(1)から(3)の記事をNL委員会にご送付いただきますようお願いいたします。

募集する記事の内容

- (1) 学会の趣旨に関連すると思われる著作・訳書などを出された場合
募集対象とする著作の発行時期: 2018年5月から2018年12月末まで
書名、著者名、出版社名、出版年、総ページ数と本の内容を200字以内で紹介
- (2) 学会の趣旨に関連すると思われる著作で、会員に広く紹介することが望ましいと思われる場合
募集対象とする著作の発行時期: 2018年5月から2018年12月末まで
書名、著者名、出版社名、出版年、総ページ数と本の書評を200字以内でまとめる
- (3) 学会に関連する海外のシンポジウムや震災関連のシンポジウム等、関連学会に参加された場合
募集対象とする時期: 2018年5月から2018年12月末まで

◆ 記事の送付期日: 2019年1月6日

◆ 記事の送付先: NL委員会 内藤 伊都子宛 itnaito@ed.tokyo-fukushi.ac.jp (全角の@を半角の@に変更してください)

■ 関連学会の大会紹介記事の募集

会員に紹介するのにふさわしい関連学会の大会情報を随時募集しております。具体的には、(1)学会名、(2)大会名、(3)大会テーマ、(4)大会日時、(5)会場、(6)その他詳細(120字程度)をお書きのうえ、NL委員会委員長の 内藤 伊都子宛 itnaito@ed.tokyo-fukushi.ac.jp (全角の@を半角の@に変更してください) に送ってくださいますようお願いいたします。

(NL委員会委員長 内藤 伊都子)

編集後記

ニュースレター第33号をお届けいたします。2018年度を迎え、会員の皆さまのなかには、所属や会員種別等が変更となった方もいらっしゃるのではないのでしょうか。各種変更やお問い合わせ内容によって、手続きや問い合わせ先が異なる場合がございます。今号のニュースレター 18ページ“事務局より”に、各問い合わせ先ががございますので、ご参照いただければと思います。また、年次大会や各地区研究会に関するお問い合わせにつきましては、各ページもしくは最新のHPをご覧いただければと思います。

今号では、第17回年次大会の概要や発表募集のお知らせのほか、特定課題研究や若手研究者の育成を目的とした広域研究会のご案内もがございます。本学会が今後も多くの方々の研究成果の場となることを願っております。

(NL委員会:内藤 伊都子・守崎 誠一)